

コミセンワークショップ報告書			
日 時	令和5年7月29日(土) 15:30~17:30		
場 所	松林公民館 講義室		
参加者 (敬称略)	市民6名 設計3名 市役所3名 アドバイザー2名(大学)	備考	グループ数: 2
			グループ構成: 市民3名 市・設計・アドバイザー1名 計1グループ6名
内 容			
・WSの結果について	【A班】		
	<p>Step1の個人ワークの中では「あなたにとって居心地のいい場所はどこですか?」、「コミセンを自由に使えるとしたら何がしたい?」という質問に関しては、参加者から豊富で柔軟な私見が多数見られたが、「普段、公民館はどんな使い方をしていますか?」という質問に関してはほぼ同じ意見として、〈サークルの集まり〉や〈会議〉といった意見が重なった。「あなたから見たまちはどんな町ですか?」という質問に関しては、〈フランクなやり取りができる・地域の絆が強い・子供が多い〉、〈温暖な気候で自然が豊富〉といった公民館や松林地区に関して共通認識が見られた。</p> <p>Step2の意見の共有では意見の少なかった「普段の公民館の使い方」、「どんなまちか」について深堀を行いながら、意見を増やしていった。その中で最も多く取り上げられたのは、公民館の使われ方がルールばかりで何をするにも2人以上のサークルを作り団体登録しなければ使えないことから目的意識がないとふらっと利用できない事、生産人口は仕事で忙しく利用できなく、子供に関しても暗黙の了解で17時以降の利用を遠慮してもらっている事であった。上記の事からコミュニティセンターに望む機能が、<u>フリースペースがなるべく多く、固定機能利用よりも柔軟に対応できるスペースが欲しい</u>ということや<u>地域に共働きの世帯が多く、帰っても一人で寂しい子供達もいるため子供達の居場所となれる場所</u>の二軸で話が進んでいった。</p> <p>Step3のグルーピングでは、step1, step2の意見を踏まえて、現状の公民館の問題点と松林地区の環境・コミュニティの三つの観点からコミセンに欲しい機能をソフト・ハードに分けて分類した結果、個人利用や少数利用から交流を促すための意見が多く見られた。</p> <p>また運営や設備的に生産人口や年少人口が楽しめる意見も見られ参加者に多世代で交流がしたいとの要望をもらった。</p>		
			

【B班】

「居心地のいい場所」について一人ずつ発言していくと、1つの意見に対し連鎖的に発展して単一のテーマについて話すということではなく、連続して意見を出していくグループワークとなった。例えば、〈居心地の良い場所はコーヒーの美味しいカフェ〉→〈美味しいコーヒーを入れてくれる人がいるなら、教えてもらいたい〉→〈長い間やるのは大変だから1週間ごとに入れてくれる人が変わったら良いかも〉→〈それは教えたい人と教わりたい人が交流できるし、変わるなら飽きないから良いね〉という具合である。次第に中心となっていったのが50代女性で、子育てしながら感じている要望や悩みからグループでその課題を解決していく形に変わった。〈ちょっと美容院に行きたい時に見ていてくれる人がいない〉、〈孫の子守をするのと同じようにコミセンで見ればよいのでは?〉、〈読み聞かせとかできたらよいね〉という流れで意見交換が進み、目的があるから行くというより、ちょっと寄ると交流できて楽しい場所のイメージがグループの中で生まれた。コミセンは地域の踊り場というキャッチフレーズにみな納得の様子であった。

